

令和3年第4回小金井市教育委員会定例会議事日程

令和3年4月13日（火）

午後1時35分開会

開催日時	令和3年4月13日	開会 1時35分 閉会 2時21分	
場 所	小金井市役所第二庁舎 801会議室		
出席委員	教 育 長 大熊 雅士 教育長職務 代理者 福元 弘和	委 員 岡村理栄子 委 員 浅野 智彦	
欠席委員	委 員 小山田佳代		
説明のため出席した者の職氏名	学校教育部長 大津 雅利 生涯学習部長 藤本 裕 庶務課長 鈴木 功 学務課長 本木 直明 指導室長 加藤 治紀 指導主事 西尾 崇 指導主事 向井隆一郎	公民館長 鈴木 遵矢 ※ 他の課長職者は、自席待機  庶務課庶務係長 中島 憲彦	
調 製			
傍聴者人数	2名		

日程	議 題	
第 1		会議録署名委員の指名
第 2	代 処 第 4 号	学校運営協議会委員の委嘱に関する代理処理について
第 3	報 告 事 項	1 令和 3 年第 1 回小金井市議会定例会について
		2 令和 3 年度学級編制について
		3 寄附の収受について
		4 小・中学校教育管理職及び教員の異動について
		5 教育課程の届出報告について
		6 その他
		7 今後の日程

大熊教育長 ただいまから、令和3年第4回小金井市教育委員会定例会を開会  
する。

日程第1、会議録署名委員の指名である。

本日の会議録署名委員は、福元教育長職務代理者と岡村委員にお  
願います。

(委員一同異議なく、上記2名が選出された。)

大熊教育長 次に、日程第2、代処第4号、学校運営協議会委員の委嘱に関す  
る代理処理についてを議題とする。

提案理由の説明をお願いします。

大津学校 提案理由について御説明申し上げます。

教育部長

本件については、学校運営協議会委員を委嘱する必要が生じたが、  
本件は教育委員会の議決すべき事項で、教育委員会を開催する時間  
的余裕がなかったことから、小金井市教育委員会教育長に対する事  
務委任規則第4条第1項の規定に基づく代理処理をしたことにつ  
いて、同条第2項の規定により、その承認を求めるものである。

細部については担当室長から説明するので、よろしく御審議の上、  
御承認賜るようお願い申し上げます。

加藤指導室長 では、御説明をさせていただきます。

令和3年第3回教育委員会定例会にて、小金井第一小学校、前原  
小学校、緑小学校、南中学校、4校の学校運営協議会について議案  
を提出させていただいたところである。

4月1日付けで各学校の校長、副校長の人事が確定したことを受  
け、各学校運営協議会委員として、各校長、副校長に委員の委嘱に  
ついて代理処理を行ったことから、報告するものである。

よろしく御審議の上、御承認賜るようお願い申し上げます。

以上である。

大熊教育長 事務局の説明が終わった。本件に関し、質問、御意見はあるか。  
よろしいか。以上で質疑を終了する。

それでは、お諮りする。代処第4号、学校運営協議会委員の委嘱に関する代理処理については、原案どおり承認することに御異議はないか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長 御異議なしと認め、本件に関しては原案どおり承認することに決定した。

次に、日程第3、報告事項を議題とする。順次担当から説明願う。

初めに、報告事項1、令和3年第1回小金井市議会定例会について、報告願う。

大津学校教育部長 それでは、令和3年第1回市議会定例会について、初めに学校教育部から報告させていただく。

報告事項1資料を御覧いただきたい。

質問内容等が記載してあるが、新型コロナウイルス感染症の現下の東京の感染状況、感染拡大防止の観点から、開催時間の短縮を図るため、資料の配付で説明を省略させていただく。

一般質問の関係であるが、学校教育部関係では、報告事項1資料にあるとおり、4名の議員から御質問をいただいたところである。

また、補正予算の関係では、令和2年度の最終補正予算となることから、契約差金等の決算に向けた最終調整に係る補正予算を計上し、御議決いただいたところである。

また、令和3年度の当初予算については、学校教育部関係で、昨年度に比べ約2.1%増の予算を御議決いただいたところである。

また、厚生文教委員会においては、小金井市学校施設長寿命化計画(案)に対するパブリックコメントの実施についてと(仮称)小金井市教育支援センター基本構想(案)の2件について、行政報告を行ったところである。

以上で学校教育部からの報告を終わりとする。詳細等については、ユーチューブで記録配信を行っている。会議録も間もなくホームページにアップされると思うので、そちらを御覧いただきたいと思うので、よろしく願います。

藤本生涯 令和3年度第1回市議会定例会について、生涯学習部のほうから

学習部長

今度は報告する。

一般質問は、学校教育部と同様に省略させていただくが、質問内容については、報告事項1資料にあるとおり、5人の議員の方から質問をいただいた。

詳細等は、ユーチューブにて小金井市議会録画配信を行っており、会議録もホームページにアップされるので、そちらで御確認いただきたいと思う。

また、スポーツ基本法の規定に基づき、本市のスポーツ行政を推進するために上程した小金井市スポーツ推進審議会条例については、本会議において、賛成多数にて可決いただいている。

報告は以上である。

大熊教育長

ありがとう。

ただいまの報告に関し、何か質問等はあるか。

よろしいか。

次に、報告事項2、令和3年度学級編制についてを報告願う。

本木学務課長

令和3年度学級編制状況について御報告する。

お配りしている資料を御覧いただきたい。報告事項2資料になる。表面が、令和3年度学級編制状況である。

前年度と比較すると、小学校では、通常の学級で児童数が5,729人で、162人の増、学級数は181学級で、7学級増となっている。

中学校では、通常の学級で生徒数が2,133人で、94人増となり、学級数は61学級で、2学級増となっている。

通常学級の1学級平均児童・生徒数は、小学校では31.65人と、昨年度と比べ0.34人の減となっている。

中学校では34.97人と、昨年度と比べ0.41人の増となっている。

なお、中学1年生の中1ギャップ加配は、二中、緑中、南中が該当となり、二中は学級規模縮小を、緑中、南中はTTの活用を選択した。

また、本年度から指定校変更の弾力的運用を行っている。

1つ目は、小金井第三小学校の大規模化対応に伴うもので、希望により、三小から隣接校に変更できるものである。実績として、一

小へ12人、緑小へ2人が指定校変更となった。

2つ目は、本年度から、部活動を理由とした指定校変更の制度を導入した。実績として、1名の生徒が本制度により変更となっている。

続いて、特別支援級については、小学校では、児童数は57人で5人増、学級数は9学級で2学級増となっている。

中学校では、生徒数は33人で4人の減となり、学級数は6学級で1学級増となっている。

なお、児童・生徒数は、在籍者から学級編制算定対象外の者を控除した数値となっている。

次に、裏面の国立・私立学校等に入学した新1年生調べである。

小学校では、国立・私立、特別支援学校等へ入学した者が56人となっている。新1年生の全体の5.2%と、前年度より0.2%の増となっている。

中学校で国立・私立、特別支援学校等に入学した方は212人で、新1年生全体の21.9%で、前年度より1.0ポイントの減となっている。

なお、都立一貫校へ入学した人数については、29人だった。

最後となるが、参考までに、令和3年度通級指導学級の状況を掲載した。詳細は表を御覧いただきたいと思う。

以上である。

大熊教育長 報告に関し、質問等はあるか。

もしも、学区域の再編成ということで、三小がやらなかった場合はどうなったのか。

本木学務課長 三小の新1年生は今、通常学級で152人となっているが、14名足すので166名ということになり、今、5クラスになっているが、5クラスは175名までオーケーということになるので、結果としては、クラス数は変わらなかったという形になる。

大熊教育長 一小も増えなかったのか。一小はクラスが増えた。

本木学務課長 一小の新1年生は101人となっており、101人は今、3クラスである。12人増えなかったとすると89人になるので、この場

合もやはり3クラスということになる。結果的に変わらなかったということである。

大熊教育長 変わらなかったのか。三小の激増を少し抑えることができたということだと思う。よろしいか。

では次に、報告事項3、寄附の収受についてを報告願う。

本木学務課長 令和2年度の寄附物品について、報告事項3資料のとおりである。地域の業者様、個人、PTA様、団体様より、多くの物品を御寄附いただいた。大変感謝申し上げますとともに、大切に使用させていただく。

簡単であるが、報告事項3についての報告を終わらせていただく。

大熊教育長 たくさんの人からたくさんの寄附を頂いた一覧表になっている。よろしいか。

改めて、多くの方々から御寄附を頂いた。ここで改めてお礼を申し上げます。ありがとう。

次に、報告事項4、小・中学校教育管理職及び教員の異動についてを報告願う。

加藤指導室長 令和3年度小金井市立学校校長・副校長名簿及び教員転入・転出者名簿について報告する。報告事項4資料を御覧いただきたい。

令和3年度は、校長4名、副校長6名が新たに着任した。

また、教員の転入・転出者名簿も作成した。転入者は、再任用を除き77名で、そのうち新規採用者が30名、期限付採用者が2名となっている。

なお、新規採用者数が例年より多いのは、今年度に限る特別措置として、東京都の配置要件が緩和されたことによるものである。

以上により、全校に不足なく教員を配置することができる。

以上である。

大熊教育長 今までは教員が足りなかったということがあったが、今年はそういうことはなく、しっかりと運営ができる学級数を確保できたということである。

少しお話を、東京都の緩和措置というのはどういうことだったの

か。

加藤指導室長 東京都のほうから、新規採用者について、学級増減の微妙なところだったり、病気休職等が見込まれるところについて、確定していない段階でも配置を可能とするといった条件提示があったので、学級数増が見込まれるぎりぎりのボーダーの学校とか、休職者の可能性があるというところに配置が進んだということである。

大熊教育長 本来であれば確定してから配置をすることになったが、今回は、前倒しというか、そういう可能性があるところは事前に配置が進んだということで、学校もしっかりと対応できるようになったということによろしいか。

加藤指導室長 はい。

大熊教育長 よろしいか。  
次に、報告事項5、教育課程の届出報告について、報告願う。

加藤指導室長 小金井市立学校令和3年度教育課程届出の状況について、御報告をする。報告事項5資料を御覧いただきたい。

令和3年度の教育課程届出については、令和3年3月中に14校全校、滞りなく終了している。

内容の詳細について、指導主事の西尾より説明申し上げる。

西尾指導主事 市立小・中学校14校の令和3年度の教育課程を、令和3年3月12日に受理した。配付した資料は、令和3年度の教育課程のまとめとなる。

令和3年度の教育課程編成の重点としては、授業改善の推進、教育相談の充実、地域連携の推進の3点とした。各学校の教育課程では、この3点について、児童・生徒の実態や地域の特色などを踏まえ、具体的な取組が示されている。

各学校の教育課程編成上の工夫としては、主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善を図る学校、ICT機器を活用した授業の推進を図る学校、不登校、いじめの早期発見、早期対応を進めるために組織的な教育相談体制を強化し、校内支援体制の充実を図る学



校、地域人材や学習支援ボランティアを生かした学習支援を行う学校などが見られる。

今年度も、市立小・中学校においては、学校の教育目標の具現化に向けた特色ある教育活動が展開されることが期待される。

教育委員会としても、校長会、副校長会、教務主任研修会、学校訪問などの機会を活用して、学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の推進、教育課程の適正な進行管理について、指導を行っていく所存である。

報告は以上である。

大熊教育長

ただいまの報告に関し、何か質問等はあるか。

福元教育長  
職務代理者

念願のICTが、子供たち1人1台、手元に渡った。これを、GIGAスクール構想の中にあるように、それぞれ学校が十分研修できるよう、そして積極的に活用できるよう、事務局のほうでもさらに支援をしていただければありがたいと思う。

それからもう一つ、いじめ、不登校についてだが、いじめ問題は結局は人権問題であるから、やっぱり早期発見、早期解決を適切にできるように、各学校、努力をしていただきたいと思う。

それから、不登校のほうだが、その子なりの成長を期待するためにも、ただ学校復帰が目標ということではなくて、その子なりの居場所を大事にして、子供一人一人を伸ばしていけるような対応を、今後も引き続き検討していったほしいと思う。

大熊教育長

要望事項ということで、指導室長、何かコメントはあるか。

加藤指導室長

ぜひ積極的に進めてまいりたいと思うが、研修等についてはこれまでも何回か、ICTの研修については進めてきているし、今後も研修を進めていく。今、予定されているところでは、教務主任研修会等を含めて、研修会のプランニングを進めている段階である。

また、いじめ問題と不登校については、おっしゃるように、細やかな把握というところがまず第一かなと思うので、そちらのほうは従来、ふれあい月間というもののアンケートがあったが、それに加えて、時期等はちょっと検討中であるが、子供たちの心の面の様子を探っていくためのアンケート調査といったものを今、実施に向

けて検討を進めているような段階である。そういったことを行いながら、ケアに努めてまいりたいと考えている。

以上である。

大熊教育長

よろしいか。

今日は検討事項が少なかったが、4月当初でもあるので、教育課程の届出のことだけでなく結構なので、教育委員会に対して要望等があれば、出していただければと思うが、何か。

大津学校

ちょっとその前に、よろしいか。

教育部長

先ほど、報告事項2の学級編制のところの弾力的運用のところ、一部間違っただけを報告させていただいてしまったので、ここを訂正させていただきたい。

大熊教育長

よろしく願います。

本木学務課長

大変申し訳ない。先ほど、三小等からの隣接校への変更ということで報告をして、御質問で、三小の人数はどうかということだったが、昨年度の資料と間違えて報告をしてしまった。訂正をさせていただきます。

三小の今年の新1年生の人数は128名ということで、4クラスになっている。14名が一小と緑小に移ったので、これがなかったとすると142名ということになり、5クラスになっていたということになるので、1クラス減ったということになっている。

なお、増えた一小については、138名で現在4クラスである。増えなかったとしたら126名で4クラスで、同じという結果になる。緑小も、現行116名なので、増えなかったとしたら114名で、4クラスのままという形になっている。

大変失礼した。

大熊教育長

ということは、今回の弾力的運用で、三小の学級数は増やすことなく対応はできたが、移動した一小と緑小の学級数増にはつながらなかったということによろしいか。

本木学務課長

そういうことになる。

大熊教育長            ということだそうで、効果があったということである。よかったと思う。

では、ちょっと元に戻って、何か。どうぞ。

岡村委員            私、教育委員になって、医者だから医学的なことをいろいろ考えて、実は性教育とか、この間、パブリックコメントで、性被害者は、性教育が足りなくて、すごく時効が短いのである。小さいときにどういうことをされているか分からないことがあるから、それも教育が必要だと言われて、そうだなと思ったこととか、あと、例えば先生方の働き方改革とか、医学的に産業医を使うなどの方法はないのか。

あと、例えば地震のときとかも、熊本地震だと中学生のボランティアの、御飯を配ったり、けがの手当てをしたり、すばらしいなと思って、どうにか取り入れてもらいたいなと思っていたが、小金井にはジュニア救命士というのがあるらしくて、それも全然知らなかったなと思っていた。取りあえず今はコロナの問題が大切で、みんな子供たちは、コロナに対してすごく微妙に怖がっていて、学校に行って、手を消毒したりとかいろいろ教えてもらって、こういうことまでできるのは、すごく勉強になった。コンピューターも配付されて、小金井市はとてもいいのだが。

現在、子供たちのことで小児科の医師が問題にしているのは「小児科医というのは子供たちの主治医、かかりつけ医として存在していた。」ということだ。

例えば、発熱時、軽い風邪などで小児科へ行くことで、普段の様子を小児科医がつかんでいると、今、疾病で小児科に行くと「この子にしては元気がないな」や「何か落ち込んでいるようだ」とわかるのだが。しかし、今、逆に新型コロナウイルス感染の恐れから、小児科受診を控えたり、実際にマスク・手洗いで感染症が減り、よいことなのだが、小児科の医師も子供たちとのふれあいが減り、子供たちの様子がわからず心配され、小金井医師会会員全員にも新型コロナウイルス感染下における子供たちの心のストレスについて、注意・喚起のメールが市の小児科医からきた。新型コロナウイルス感染の何となくの不安や、コロナに対する対応が家庭環境で差がついていることに気づくなど、とてもストレスフルなようである。

それを、小金井の教育委員会はこれからどのように捉えていって、どのように進めていって、それについて気をかけていただいているかというのを、ちょっとお聞きしたいと思った。

大熊教育長 コロナ禍における子供たちの、ストレスがかかっているのではないか、そのことについて、教育委員会としてどのように対応をするかという点、どうか。

加藤指導室長 まずは、先ほど少しお伝えさせていただいたが、子供たちのメンタル面でのアンケート調査を通して、一人一人の状況をきめ細やかに探っていく、つかんでいくといったようなことを現在、準備を進めている段階である。

また、これまでのこととしては、各校にスクールカウンセラーが配置されているが、小学校5年生、中学校1年生には全員の面接ということで実施をしているので、担任には話しづらいとかそういった部分について、スクールカウンセラーを通して把握していくといったような試みを、現在は進めてきているところもある。

岡村委員 ありがとう。よろしく願います。

ただ、勉強の遅れというのをすごく皆さん心配しているが、学校は、つくづく今思うに、勉強だけじゃないんだなと思った。勉強の遅れを心配しているが、お友達と一緒に遊んだりとか、それもすごく大切だと思ってしまう。

あと、私、出張図書館であったか、お話しして、あれがすごく楽しかったというお話を聞いたので、インターネットで流すので、もしあれだったら、楽しいものを流してもらおうと、遊びとかそういうものも、勉強だけではなくて、また自宅学習になったときでも、何か楽しい、誰か体育の先生か何か、前のとき、楽しいダンスみたいにして、ああいうものを流したら子供たちは楽しむのではないかなと思った。

本当にどうしたものか、コロナの恐怖もあるし、いろいろあるので、よろしく願います。みんな子供たちの不安が、今度、子供たちはあまり重症化しないと言われていたのに、割とかかりやすいものがはやってくると、もしかして休校になってしまうのかもしれないので、その点、大変だと。いつも迅速な対応をありがとう。また

よろしく願います。

大熊教育長 小学校5年生と中学校1年生がカウンセラーに面談をするということだが、その結果はどうやって集約するのか。

西尾指導主事 結果については、各校のスクールカウンセラーのほうで取りまとめたものを、各校で管理職と各校の校長、副校長に、面接の内容については報告することになっているので、その中で、大きなものについては、校長、副校長に報告が上がったところから、学校の中で組織的に対応してもらおうという流れになる。

内容によっては、担任に話が直接、スクールカウンセラーから行くこともあると思うが、原則としては管理職に、面接内容については報告が行くことになっている。

岡村委員 中には、やはり医学的に対応しなくてはいけないこともあると思うので、それをくみ上げていただいて、小児科の先生とか小児精神科の先生に相談していただきたいと思う。

西尾指導主事 あとは、全員面接のときだけでなく、スクールカウンセラーから上がってきた情報については、各校の教育相談の担当者やスクールソーシャルワーカーが常に連携を取り合っているので、その中で、ストレスとか不安だけではなく、例えば医学的なというところが関わってくる児童・生徒については、そういうところも通して、学校で組織的に体制をつくっているの、そこで対応するようになっている。

以上である。

岡村委員 よろしく願います。

大熊教育長 今の点は大切な視点だと思う。コロナ禍で、いわゆる学力面だけではなくて、心の健康についてどうなっているのかというのを、しっかり教育委員会としても把握していただいて、課題があった場合には早急に対応していただく。

今、専門のお医者さんに診てもらおう等も含めて、早急に対応していただく必要があるかと思うので、計画的に進めていただければと

思うが、指導室長、その点、どうか。

加藤指導室長 関係機関との連携というのは非常に、こういった面では欠かせない部分であるので、そこは学校の中で情報を共有しながら、関係機関との連携も充実させていくといったような体制は、学校では取っているかなと思う。

大熊教育長 そういうことなので、よろしいか。

岡村委員 はい。

大熊教育長 では、対応方、よろしく願います。  
ほかにないか。

浅野委員 3点、希望というか、そういったことを申し上げたいと思う。

1つ目は、この4月から中学校でも新しい指導要領が実施されるということで、昨年、私たちも教科書を選んだわけだが、その過程で、教え方が随分変わるんだなという印象を強く持った。

だから、現場の先生方は、これまでとはまた違ったことを工夫していかなければいけない、そういう局面に立たされており、少し御負担をおかけすることになるのかなと思うが、ぜひそこを何とか乗り切っていただきたいと同時に、先ほど、福元委員からもお話があったが、GIGAスクール構想の前倒し実施ということで、新たな環境の中でということになると思うので、ICT技術、ICTの学校現場における充実といったことと、それから、新しい指導要領の実施ということの間の折り合いを、ぜひ頑張ってつけていただきたい、その形で前に進んでいただきたいなと思う。

それが1点目である。

2点目が、昨年度、新型コロナウイルスの感染拡大の中で、浮上してきた課題の一つが、保護者と学校間のコミュニケーションをより密にしなければいけないということだったろうと思うが、コロナ収束後を見据えて、やはり今後とも、家庭と学校間の意思疎通を密にし、双方ともに、保護者のほうも学校のほうも、納得のいく形で学校教育を進めていくことができればいいなと思っている。

それが2点目である。

3点目が、2点目とも関連するが、コミュニティ・スクールが、昨年1校で始めて、今年は4校ということで拡大していく、そういう傾向にあって、大変喜ばしいことだと思っている。これを順調に軌道に乗せて、ぜひ展開していきたいものであると思っている。

以上である。

大熊教育長 授業改革、それから、保護者と学校の連携、コミュニティ・スクールのことについての要望があったが、まとめて、指導室長、どうか。

加藤指導室長 まず、授業改善というところについては、4月の校長会等でも、しっかりと進めるようにと、大きな変革の時期に来ているというような発信を、教育委員会、指導室のほうからもさせていただいているところである。

また、どのように実際に進めていくのかというのは、各学校単位でも検討を重ねていくところであるが、市内の学校と学校との連携というところも非常に重要になってくるということもあるので、実践の共有というところで仕組みを整えて、授業も、例えば動画だったり、資料だったりを保存して共有する、そのような仕組みの充実というものを、実際に指導室のほうで進めていく現状である。

また、保護者と学校との緊密な連携というところは、委員おっしゃるとおりである。お話にもあったが、3点目のコミュニティ・スクールといったところが大きく関係してくるかなというところである。

学校では、開かれた教育課程ということで、十分に意識をしていると思うので、そこに加えて、コミュニティ・スクールの取組というところを今、4校指定をされているが、それ以外のところも含めて積極的に進めていくようにということで、今後、指導室からも働きかけをしていきたいと思っている。

以上である。

大熊教育長 よろしいか。

浅野委員 ありがとう。

大熊教育長           ほかにないか。

福元教育長  
職務代理者           先ほど要望を言い忘れたが、教育課程の届出報告の中で、3の地域連携の推進というところで、各校を全部見てみると、今までの学校だけではなく、地域総がかりで進めていきたいみたいな目標がずっと並んでいるが、これからはその方向でぜひ行ってほしいと思うので、事務局のほうでも、それを推進する応援をしていただければありがたいと思う。

それから、もう一つ、教育長が自分で直接説明されたG I G Aスクール構想、あれが非常に分かりやすかったのだが、実際に自分が授業をすると、どのようにやればいいのかというのが、必ずしも十分に理解したとは言えないところがある。この辺も、担任の立場で考えると、非常に悩むところだと思う。

それで、校内研修を進めるとか、東京学芸大学との共同研究とか、G I G Aスクールサポーターの配置とか、いろいろ事務局が努力してくださっているのは分かるが、担任の立場でいったときに、どのような支援をしていただけるのかなと、そこをもう一回聞きたい。

加藤指導室長       まずは、担任の先生への支援というところで言うと、1つは、やはり技術的な支援という部分があるかと思う。新しい端末、新しいアプリケーション等を使ってということなので、そこを苦手な方も含めて、理解をして、どのように使っていけばいいかという、使い方の部分を学んでいくということが必要になるかと思う。

これまでも研修等を行っているが、校内で言えば、得意な先生というのも一方ではいるわけで、そういった方の専門性を生かして、苦手な方に対してのサポートをしていく、まず、そこが第一になってこようかなと思う。

教育委員会としては、さらに先進的なというか、そういった面でのサポートができるような研修の仕組みをつくっていく、そういったことが支援に当たってこようかなと思っている。

あと、具体的に、では授業のスタイルとしてというところで、どのように構築していけばいいのかといったことがあろうかと思う。これについては、もちろん校内でいろいろな先生方が、アイデアを持って創造していくということが基本になろうかと思うが、様々な地域だったり、あるいは、先ほどおっしゃった大学等での先行事例



等もあるので、そういったものを実際に目の当たりにしながら、それを取り込んでいくといったようなことが今後、加速していくかなと思っているところである。

福元教育長  
職務代理者            ありがとう。

大熊教育長            具体的な研修内容について、教えてもらえるか。

西尾指導主事        昨年度までに3回、クロームブックの活用のスタートプログラムの研修を実施した。そちらには、全校から二、三名の教員が1回当たり参加するという形だったので、現時点で、各校で五、六名の先生方がクロームブックのほうで、基本的な活用の仕方は十分マスターできているという状態になっている。

この後、先生方にウェブ上でのアンケートを実施することを考えている。アンケートというと負担になるところも多くなるが、ウェブ上なので、ほとんどクリックするだけで、十幾つかの項目をクリックするぐらいの、先生方に御負担をかけないようなアンケートを現在考えている。

実態を把握して、今後、学校の先生方にどのような支援ができるのかというところを、教育委員会、事務局のほうでも考えていきたいと思っている。

あとは、実践の共有の場をつくる一つとして、教務主任研修会や次世代教育推進委員会の中で、各校でどのような実践をしているのか、現状、困っていることとか、こういう新たな取組をしてよかったなどということ、横のつながりで共有してもらったものを、各校で下ろしてもらおうというような形で、先生方のアイデアを生かすような形での実践の広まりの場をつくっていくことも計画している。

以上である。

大熊教育長            あと、来週の20日に、先ほど指導室長から話があったように、東京学芸大学、NTTコミュニケーションズ、小金井市教育委員会で連携協定を結んで、クロームブック及びまなびポケットの活用方法についての研究をしていくということが決まっている。

多分、日本で初めての取組になるのではないかなと思っているのだが、東京学芸大学のほうからすると、東京学芸大学の先生は教科の専門性が高いが、1人1台のコンピューターを使った授業となると、まだその辺を研究されていない先生も多いと思う。東京学芸大学の英知は、その教科の専門性としてしっかり先生方が継承できるようにするということ。

それから、NTTコミュニケーションズも、実は、まなびポケットというものをつくっているが、それが本当に子供たちにとって有効かどうかという検証は、実際はできていないというところがあって、授業を通して、どのように活用を推進していったらいいかという検証を行うこと。

小金井市の教員にとっては、東京学芸大学の教科の英知と、いわゆる、まなびポケットと言われるもののソフトの活用、それから、クローズドブックの活用等もしっかり研究できたらいいかなど。その研究の成果を広く全国に発信していきたい、そのように思っているところである。

ほかにないか。よろしいか。

生涯学習課から何かあれば。

藤本生涯  
学習部長

特にない。

大熊教育長

次に、報告事項5、今後の日程について、事務局より報告願う。

中島庶務係長

それでは、教育委員会の今後の日程について御報告する。

東京都市町村教育委員会連合会第1回理事会が4月20日、火曜日、午前11時から東京自治会館で開催される。福元委員の御出席をお願いする。

続いて、東京都教育施策連絡協議会が4月22日、木曜日、午後3時30分から東京都教職員研修センターで開催される。会場開催以外にもオンライン配信が予定されているので、御視聴いただきたい。

続いて、第5回教育委員会定例会が5月11日、火曜日、午後1時30分から第二庁舎8階、801会議室で開催する。

続いて、関東甲信越静岡市町村教育委員会連合会（千葉大会）が5

月中旬から下旬にかけて、総会は書面開催、研修会は動画配信される予定である。

続いて、第6回教育委員会定例会が5月25日、火曜日、午後1時30分から第二庁舎8階、801会議室で開催する。

続いて、第7回教育委員会定例会が7月13日、火曜日、午後1時30分から第二庁舎8階、801会議室で開催する。

それぞれ御出席のほど、よろしく願います。

なお、コロナ禍のため、予定を変更する場合があります。その際、市民の皆さんへはホームページ等で御案内をさせていただきます。

今後の日程は以上となる。

大熊教育長

よろしいか。

以上で本日の日程は全て終了した。これをもって、令和3年第4回教育委員会定例会を閉会する。ありがとう。

閉会 午後2時21分